



牧 監 第 36 号  
令和2年8月5日

牧之原市長 杉本 基久雄 様

牧之原市監査委員 飯塚 貴穂  
同 上 太田 佳晴

令和元年度牧之原市水道事業会計決算の審査意見書について（提出）

地方公営企業法第30条第2項の規定に基づき審査に付された、令和元年度牧之原市水道事業会計の決算及び附属書類について審査したので、その結果について次のとおり意見書を提出します。

令和元年度

牧之原市水道事業会計決算審査意見書

牧之原市監査委員

# 令和元年度 牧之原市水道事業会計決算審査意見

## 第1 審査の根拠

地方公営企業法第30条第2項

## 第2 審査の期間

令和2年7月14日（火）から8月5日（水）までの23日間

## 第3 審査の会場

牧之原市役所 榛原庁舎6階 会議室2

## 第4 審査対象

令和元年度水道事業会計決算

## 第5 審査の方法

審査に当たっては、水道事業会計の決算書、財務諸表及びこれらに関する附属書類について、計数の確認を行ったほか財務状況及び予算の執行状況について審査した。

また、水道事業会計決算書の附属書類の中で、主に不納欠損の基準等について説明を求めた。

## 第6 審査の結果

審査に付された決算報告書及び附属書類は、いずれも関係法令等に基づいて作成されており、その計数は関係諸帳簿と符合し正確であり、当該事業の財政状態及び経営成績を適正に表示しているものと認めた。

## 第7 審査の意見

収益的収入の大部分を占める給水収益は、大口使用者の使用水量減少などによって、前年度より減額となったが、一方で、収益的支出は、前年度水道事業等の計画策定が完成したことによる委託料の減少や企業債利息の減少などによって、前年度より減額した。このため、収益的収支は黒字決算となった。

しかしながら、今後も人口減少・水需要減少傾向が見込まれるなか、管路の更新・施設の老朽化などが進み、財政収支の見通しはマイナスになると見込まれる。

市水道事業ビジョンの目標に掲げた、「安全・安心な水道」、「災害に強い水道」、「健全な水道事業経営の持続」の実現に向け、今後も努められたい。

## 第8 決算の概要

令和元年度の給水人口は、37,862人、給水件数16,161件、普及率99.89%である。  
 総配水量6,293,199<sup>m</sup><sub>3</sub>、また有収水量は、4,776,173<sup>m</sup><sub>3</sub>となった。有収率は、75.89%  
 施設利用率60.33%、最大稼働率67.64%、負荷率89.20%となった。

(税込み)

(単位：円)

区 分	事業収益	事業費用	収支の過不足額
収益的収支	1,033,413,299	973,223,967	60,189,332
区 分	資本的収入	資本的支出	収支の過不足額
資本的収支	153,383,520	347,243,483	△193,859,963

収益的収入及び支出(税抜き)は、事業収益957,710千円、事業費用917,012千円、収益的収支は、40,697千円の純利益となった。

事業収益については、給水収益908,270千円(構成比94.84%)が、主なものである。

事業費用については、原水費510,111千円(構成比55.62%)、配水及び給水費67,506千円、総係費52,320千円、減価償却費258,777千円、営業外費用27,091千円などである。

資本的収入及び支出(税込み)は、資本的収入153,383千円、資本的支出347,243千円、資本的収支の不足額193,859千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、過年度分損益勘定留保資金で補てんした。

資本的収入については、企業債110,000千円、国県補助金16,700千円が、主なものである。

資本的支出については、建設改良費231,692千円、企業債償還金111,302千円などである。主な建設改良工事は老朽管更新事業で、生活基盤施設耐震化等補助金を活用し、市道西萩間大寄線配水管布設替工事などを行い、管路工事としては、総延長約2.5kmを実施した。

令和元年度の給水原価は182円18銭、供給単価は190円17銭であった。

なお、令和元年度末の企業債借入金残高は、2,373,715千円で、前年度より1,302千円減額した。

### 注記

- 1 千円単位で表示した金額は、原則として千円未満を切り捨てました。  
このため差額又は合計金額が一致しない場合があります。
- 2 比率(%)は、原則として小数点以下第3位を四捨五入し表示しました。  
このため合計比率が一致しない場合があります。また、決算書等、他の書類と一致しない場合もあります。